

アマチュアに徹する生き方!

●日本陶芸倶楽部チャリティー作品発表展

先日、春日部地区浦高会の先輩である松本伸一様(13期)から一通のお手紙をいただきました。



「創立四十五周年記念 日本陶芸倶楽部チャリティー作品展」

【写真①】。会場が日本橋三越本店本館6階美術特選画廊・アートスクエア・工芸サロンで、会期は平成24年5月23日(水)～28日(月)でした。日本陶芸倶楽部について知りたいと思い

インターネットで検索すると・・・

日本陶芸倶楽部は、昭和42年に「アマチュア陶芸の振興と普及」をモットーに創立し、本年5月で四十五周年を迎えます。創立以来、陶芸の楽しさ・喜びをより多くの方々と共にしたいという願いから毎年開催している会員によるチャリティー作品発表展も今回で45回目となります。

作品売上げの純益は広く社会福祉に役立て、東日本大震災の復興支援にもあてさせていただきます。また創立45周年を記念して、陶芸作家各位の賛助出品を得て、従来にもまして意義深い成果を念願しております。【日本陶芸倶楽部HPより】

＊

松本様には、2009年9月の総会後の会員スピーチで『陶芸を見つけた道』【写真②:講演をされる松本様】と



いうお話を伺ったことがあります。ご紹介を・・・

＊

1. 中学の時の得意

昭和17年にこの野田市に生まれました。私達の中学生の頃は、暖房も足温器しかございませんでして寒い中で受験勉強をしておりました。私は物作りが少々得意でして父が離れの勉強部屋を造ってくれるというので自分で設計し、それが完成しました。その頃は建築家になりたいと思っていました。

2. 高校のとき得たもの、失ったもの
～人間国宝(彫金)・増田三男先生

昭和33年4月に浦和高校に入学し、川野会長とは同級生でした。ここで出会ったのが彫金の人間国宝になられた増田三男先生です。私は増田先生の工芸で指導を受けました。ここまでは建築家を目指しておりましたが、物理と数学が苦手な芸大の建築科を目指すことは諦めました。これが高校の時に失ったものです。その時に私は右脳人間であることに気づき文系の大学に進学しました。大学ではパレットクラブという絵画のサークルに入り、裸婦などを描いた覚えがあります。

3. 私のサラリーマン生活を大きく規定した仕事・「広報」～人脈の大切さ

昭和40年に大学を卒業してキッコマンに入社しました。45年には結婚し1男1女をもうけました。35歳で母屋を新築しましたが、ここではかつて果たし得なかった建築家としての夢を実現し、食堂にはテレビを置かない、子ども達の手の届くところに父親の本を置いていつでも見られるような設計としました。

4. 陶芸につながる3本の糸

- ・青年会議所(時間)
- ・料理のプロの人たち(食器)
- ・TALKの人たち(用の美)

仕事の傍らで野田青年会議所の活動にも参加しました。理事長も務めました。この時には延べにして270日会議所の仕事にかかわったという記憶があります。その時に時間の大切さ、時間を上手く遣うことを覚えました。次に40歳で陶芸の道に入りました。日本陶芸倶楽部です。ここではプロの料理人の方々とも出会い、特に東京吉兆の湯木貞一さんの言葉に驚かされました。店で味を聞かれた湯木さんは「薄口醤油が一滴足りない」とおっしゃられたのです。その感覚が、私の食器作りに繋がっているような気がします。次が「食空間と生活文化ラウンドテーブル」(TALK)で用の美を求める人々との出会いです。こうしたさまざまな出会いの中で、私の陶芸があると思います。

5. 「太虚窯」の由来

私の窯の名は「太虚窯」といいます。これは桃山時代に刀や書の目利きであった本阿弥光悦に由来するものです。彼は刀と書のプロで素晴らしい作品を残していても、陶芸に関してはアマチュアを貫き通しました。そんな光悦に因んで私もアマチュアに徹することを掲げるために太虚窯と命名しました。

＊

このような松本様の人生背景を思い浮かべながら、作品に出会いたいと思います。